

ぽぽろだより

No9

3月号

大阪発達支援センターぽぽろ（NPO大阪障害者センター教育部門）

TEL06-4257-8881 FAX050-7509-8914 E mail GSP22337@nifty.com

スタートしています

ドレミファ教室 音楽あそび教室

クの講師でもあります。今回スタッフとして参加させていたでいて一番に思ったことは、『母子分離』のよさです。もし、この場所に私

ドレミファ教室の登録数は二人、参加数は五人で始まりました。音楽あそび教室は登録数十七人、参加数は十四人です。ボランティアはそれぞれ十三人と十人で集まりました。音楽の魅力を最大限生かして、子どもの発達をいっそう豊かにしていきたいものです。参加者の感想を紹介します。

音楽あそび教室に

スタッフとして参加して

第一回目の音楽あそび教室が無事終わりました。

私は軽度発達障害をもつ母であり、そしてピアノやリトミック

と息子がいたら…と考えると、やはり口うるさくなってしまからです。すべての課題に参加させようとするし、我が子がはみ出た行動をし出すと、やはり厳しく注意してしまふ。そうなたら子どもにとつて、そこは楽しい場所ではなく、母に叱られる場になってしまふからです。その点スタッフは他人。参加したくないものには無理にさせない。でも、何度か働きかけはする。こういう冷静な態度はやはり他人だからできるのかな…と私は思いました。そして、親ではない誰かと手をつないだり、関わりをもつことの大切さも分かったような気がします。

最初は泣いていた子もいましたが、いくつかの課題をしていくうちに、みんなそれぞれ何かに興味を持ち、いろんな表情を見せてくれるようになりました。

竹太鼓は、CDが聞こえないくらいみんな元気いっぱいにたいてくれて、最初はばらばらだった音も、少しずつなんだか息があつてきたかのように聞こえました。

バルーンでは、みんな中に入り「キヤーキヤー」大騒ぎ！全然表情を変えなかつた子も、このときばかりは『にこり』と笑

子育て講座 - 卒業後の進路を考える -

～ 青年・成人期を豊かに過ごすために～

白石鍬雄氏の講演感想より

* 養護学校の高等部での三年間がいかに大切な時間かと感じました。身体の変化から来るエネルギーを今はどう発散させるかに悩んでいましたが、もっと大きなスタンスで考えていこうと思いました。

* 思春期は“ やっかいな、面倒な ” もの、心配（これは仕方ないにしても）な時期という思いしかなかったのですが、ここに至るまでも含めて、その人を育てる・育つという上で必要なプロセスなのかな...と感じました。（中略）自分の気持ち（イヤ・好き）を育っていけるように手助けできたらと思っています。

* 就労に関しては技術を身につけることばかりにとらわれていましたが、働きたいという気持ち、イヤと言えることなどを大切に育てることが就労に繋がるんだとわかりました。

* 15歳の思春期・青年期まっただ中の子どもを持ち、日常の中で子どもに命令・指図していることが多いのに気づき反省しています。

* 学校は地域の学校に通っていますが、お勉強（課題）などもしていますが、基本には自発的にやりたいこと、嫌なことなど表現できるように家庭でも取り組みながら連携して継続していこうと強く思いました。

* 今就業体験中です。自分にもできること・自分にはできないこと・そして自分にしかできないことに気づき、出会いがありますように。（中略）離職の場面を考えてというアドバイス（自分の気持ちを伝えられること）、生き生きと働けるということが大切なことなど、今日はたくさんのことを拾いました。

顔を見せてくれました。

ただ私には専門的な知識もなく、どうやって関わってあげた方がいいか？と悩む子どももいましたが、これから何度か回を重ねることで、少しずつわかっていけたらいいなと思います。

そして、一人の男の子に『かりんこ』とあだ名をつけられ、『おう！かりんこ、ピアノなかなか上手いな！』と、お褒めの言葉までいただきました。

私がピアノを弾いていたこと、そしてその音を聞いてくれたことに、とても感激してしまいました。

私自身、次回も楽しみにしています。

2007年度の行事のあらまし

自閉症講座 七月一日（日）十時～一六時

赤木重和氏（三重大学講師、臨床発達心理学）

フリーの場イベント 七月二十九日（日）～三〇日（月）

発達診断講座 八月十三（月）～十四日（火）

大阪市立青少年会館 K ABC 検査法

小田浩伸氏（大谷女子大学教育福祉部助教授）他

夏期連続講座 夏休み（八月六日～十四日）

軽度発達障害講座 二月十六日～十七日

よかったね！ Aさん 小学校最後の年が楽しくて

Aさんは聴力低下がないのに、集団での生活場面や学習場面での会話では、聞き漏らしが多くそのため誤解を受け、いじめに会うこともあり、登校しづらい状態になっていました。今後の進路のこともあり、ぼぼることばと発音教室に相談に來られました。

教育相談でAPD（聴覚情報処理障害）の可能性を感じ、諸検査を実施した結果、教室程度の騒音下では先生の話を聞き分けることがかなり困難で、口々に言う友達の話も聞き分けることが困難と分かりました。ことばの教室で個別のことばの指導を続けるとともに、お母さんから、結果を学校に伝えていただきまし。学校では、きちんと受け止めてくださり、学習を通常学級か養護学級のどちらでするかなどを本人が決めるなど、本人の意志を尊重した関わりや、聞こえにくさに配慮した関わりをしていただくようになりました。6年生では、養護学級担任と学級担任が協力して体育祭や修学旅行などの行事の参加の仕方や友達関係に配慮していただき、見違えるように元気になりました。

【Aさんのお母さんの感想】

言葉の発達が遅く、幼い頃から集団生活が苦手で、

困ったことがあるとすぐに泣いてしまう子で、私自身やりにくい子だなと思いながら育てていました。入学してから変わることもなく、先生からは甘えであると思われて、自分からつたえられるようにしたいと遠目で見守ったり、泣き続けていることを責められる日々もあつたようです。

高学年になる頃には学習面、友だちとのかわりなどすべてが深刻になり、辛くて辛くて不登校になることもしばしばありました。学校まで引つ張つていたり、先生に迎えに来てもらったりしても、本人の嫌だという気持ちが変わることがなく、途方に暮れる日々が続きました。そんな時、ぼぼるを知り通い始めて約1年間になりました。

最初の頃は、苦手な作文や絵を書くとなると泣きべそをかいていました。ぼぼるから小学校に教育相談や検査の結果を報告してもらったので、ほとんどの先生に理解してもらい、わからない時や困ったときの対処の仕方など細かい配慮をしていただき、友達の助けも含め、人と話すことの楽しさを知り、今では、元気に登校することができています。不思議なもので、1つクリアすると次々とよい方向へ向かっていくことを知り、6年生のこの1年間はこれほどの笑顔がないんじゃないかと思うほど明るい表情になり、小学校生活の楽しい思い出が作れました。この1年の中で修学旅行の時が一番の笑顔でした。

子ども・若もの支援ネットワークおおさか

このたび、「子ども 若もの支援ネットワークおおさか」が結成されました。このネットワークは大阪発達支援センター「ぼぼろ」が呼びかけ、大阪を中心とした学習塾の経営者でつくる教科研究会をはじめ、幅広い団体 個人が参加しています。相互の連携協力を強めることにより、総合的な子ども 若者支援を進めていくことが目的です。

二月二十二日には、ネットワーク代表が、子どもや若者の活動の場を求めて、千早赤阪村村長と懇談しました。懇談では、松本昌親村村長より、千早赤阪村の豊かな自然と文化が貢献できるなら、大歓迎です。村としてもできるだけ協力をしていきたい旨のお話がありました。そして、さっそく、ネットワークが取り組んでいる「子育て学習会」を、村として後援する旨の表明をいただきました。

ネットワークの具体的な動きについては、今後「ぼぼろ」ニュースでも紹介していく予定です。青木道忠

(代表世話人)

- 山本 敏貴 (大阪千代田短期大学・教授・副学長)
- 廣川 律子 (大阪千代田短期大学・教授・学科長)
- 日南 清 (金剛コロニー・支援員・千早赤阪在住)
- 松原 栄子 (主婦・千早赤阪在住)

私たちは以下のような申し合わせに沿って、協力していきます。

- 一、子育て中の親や関係者とともに、すべての子どもたちの健やかな成長・発達と、若ものたちの生き生きした社会参加を支援するために力を合わせます。
- 二、子どもや若ものたちに、自然や文化、歴史とのふれあい、さらには勤労体験、福祉体験を豊かに作りだせるよう力を合わせます。
- 三、具体的には、以下の取組みをおこないます。
 - 子育て・発達・教育・進路相談
 - 不登校・ひきこもり相談
 - 文化、スポーツイベント(演劇・演奏会・・・)
 - 自然体験、農業体験、労働体験
 - その他

酒井 誉里子 (劇団「座・ゆめ音」代表)

森岡 峰美 (のびのび学習センター・主宰、若者自立センターのびのび代表)

のび代表)

山本 典子 (発達診断・御用聞き代表)

阪口 真由美 (青年の自立センターゆう代表)

田中 則孝 (「非行」と向き合う親の会・大阪みおの会・世話人)

小田 多久代 (大阪発達支援センターぼぼろ・フリースクール部長)

青木 道忠 (大阪発達支援センターぼぼろ・所長、総合社会福祉研究所・理事)

社研究所・理事)

黒川 久夫 (教科指導研究会代表、泰成塾代表)